

製品名: HDAC8 (リン酸化 Ser39) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04768**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	HDAC8
別名	HDAC8; HDACL1; CDA07; Histone deacetylase 8; HD8
遺伝子 ID	55869.0
SwissProt ID	Q9BY41
免疫原	抗血清は、ヒト HDAC8 の Ser39 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 5-54

背景

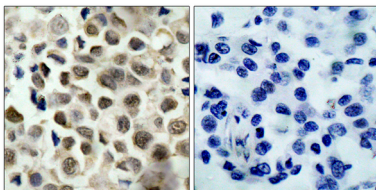
ヒストンは転写制御、細胞周期の進行、そして発生過程において重要な役割を果たします。ヒストンのアセチル化/脱アセチル化は

染色体構造を変化させ、転写因子の DNA へのアクセスに影響を与えます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーのクラス I に属します。ヒストン N 末端のリジン残基の脱アセチル化を触媒し、転写コリプレッサーを含む大きな多タンパク質複合体において転写を抑制します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2009 年 10 月]、触媒活性: ヒストンの N(6)-アセチルリジン残基を加水分解して、脱アセチル化ヒストンを生成します。、注意: ここに示す配列は、Ensembl 自動解析パイプラインから取得したものであり、予備データとしてお考えください。、機能: コアヒストン (H2A、H2B、H3、および H4) の N 末端部分のリジン残基の脱アセチル化を担います。ヒストンの脱アセチル化は、エピジェネティック抑制の標識となり、転写調節、細胞周期の進行、および発生イベントにおいて重要な役割を果たします。ヒストン脱アセチル化酵素は、大きな多タンパク質複合体の形成を介して作用します。、その他: その活性は、よく知られている 2 つのヒストン脱アセチル化酵素阻害剤であるトリコスタチン A (TSA) および酪酸によって阻害されます。、類似性: ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属します。タイプ 1 サブファミリー。、細胞内局在: 核小体から除外される。、サブユニット: PEPB2-MYH11 と相互作用する。PEPB2-MYH11 は、CBF-beta (PEPB2) の N 末端 165 残基と MYH11 の末端領域からなる融合タンパク質であり、M4EO サブタイプの急性骨髄性白血病に関連する転座である Inv(16)(p13q22) の逆位によって産生される。PEPB2-MYH11 融合タンパク質は、よく知られた転写調節因子である RUNX1 とも相互作用することから、HDAC8 との相互作用が RUNX1 を恒常的な転写抑制因子へと変換する過程に関与している可能性が示唆される。CBFA2T3 と相互作用する。、組織特異性: ほとんどの組織で弱い発現を示す。心臓、脳、腎臓、膵臓で高発現を示す。

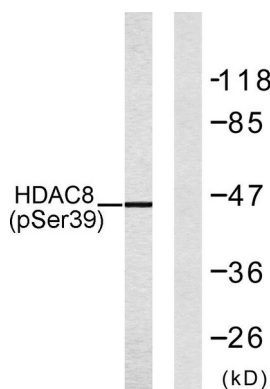
研究分野

タンパク質アセチル化

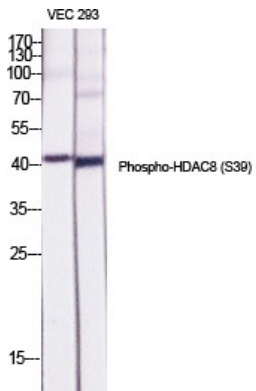
画像データ



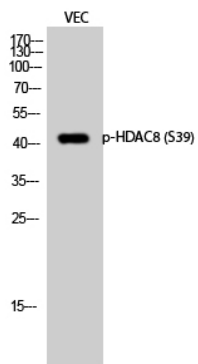
HDAC8 (リン酸化 Ser39) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートの HDAC8 (リン酸化 Ser39) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 HDAC8 (S39) ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



リン酸化 HDAC8 (S39) ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた VEC 細胞のウェスタンブロット解析